

和白干潟を守る会

2018年度活動報告

和白干潟を守る会事務局

2018年度のまとめ

1988年に「和白干潟を守る会」が発足して今年4月で31年が経ちます。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、自然観察会や和白干潟まつり・クリーン作戦・鳥類、水質、砂質調査・和白干潟通信やパンフレットの発行・ホームページでの広報など、さまざまな活動を絶え間なく続けてきました。2013年には和白干潟を守る会の活動が日本ユネスコ協会連盟により「プロジェクト未来遺産」に登録されています。和白干潟を守る会の活動に対して、2018年度は（公財）日本自然保護協会より日本自然保護大賞を受賞しました。地域づくりネットワーク福岡県協議会より「ふくおか地域づくり活動賞」準グランプリを受賞し、「あしたの日本を創る協会」より「あしたのまち・くらしづくり活動賞」振興奨励賞を受賞しました。また6月に「和白干潟を守る会設立30周年記念・日本自然保護大賞受賞記念シンポジウム」を開催しました。

昨年10月の第13回ラムサール条約締約国会議で国内では2か所の湿地が登録されましたが、残念ながら和白干潟は登録されませんでした。今後もラムサール条約に登録されるように活動を続けていきたいと思います。11月の「第30回和白干潟まつり」では「ラムサール宣言」を採択し、環境大臣や福岡市長、県知事に届けました。ラムサール条約に登録されるためには、和白干潟が国指定鳥獣保護区の「特別保護地区」に指定されなければなりません。30回目の「和白干潟まつり」はお天気に恵まれて参加者も多く、マリンワールドのタッチプールなど新しいブースも増えて、大成功でした。

「山・川・海の流域会議」の活動では、立花山・唐原川・和白干潟の保全グループが連携して保全活動を続けています。2018年は「活動としての自然保護」の講演会、唐原川の清掃活動を実施しましたが、秋の観察会「和白干潟」は台風のため中止になりました。活動への企業や学校の支援が増え、「クリーン作戦」への参加者が増加傾向です。日本ユネスコ協会連盟の仲立ちの企業も継続して参加されました。九州産業大学は特別講義を企画され、多彩に協力していただきました。2018年度もすばらしい活動ができたと思います。

ミヤコドリは25羽が飛来しました。クロツラヘラサギは20羽、ツクシガモは138羽を確認しました。

今年度も和白干潟を守る活動に、皆さまのご協力をお願いします。和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となるように希望を持ってがんばりましょう！自然豊かな和白干潟を、みんなの力で未来の人たちに渡したいと思います。引き続き若い人たちの活動への参加を心から待っています！

和白干潟を守る会 代表 山本廣子

活動方針に基づく報告とまとめ

1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」、「クリーン作戦と自然観察」「和白干潟まつり」「学習会などの企画」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の気運を高める。

1. 和白干潟観察会

2018年4月に観察会グループミーティングを行い、観察会の案内状を保育園、小中学校、高校、公民館等へ送付した。観察会の依頼を受けると、事前に下見・打合せを行い、観察会に来る学校等でパンフレットやビデオを使った事前学習をしてもらった後、観察会を実施した。

年度	団体区分	実施回数	延べ人員
2018	保育園	3	126
	小学校	4	510
	中学校	1	75
	高校	1	43
	大学	0	0
	一般	3	155
	合計	12	909

2018年度中（1月～12月）の和白干潟自然観察会は、年間12回で、延べ909名の参加があった。学校関係からの依頼では、保育園3回（香椎保育所、ちどり保育園、玄海風の子保育園）126名、小学校4回（和白小学校）510名、中学校1回（筑陽学園中学）75名、高校1回（柏陵高校）43名、合計9回、754名あった。和白小学校では、2月末に毎年まとめの発表会があり、守る会のガイドなど参加している。その他に、MS&ADグループ、ダンロップグループなど2回、延べ149名であった。また、「日本自然保護協会の「自然調べ2018～身近なアリしらべ!」」では、1回、6名の参加があった。これらの他に、和白干潟保全のつどいとして「和白干潟の生きものやハマボウを見る会」を7月に開催し、40名の参加があった。ガイドの固定化と高齢化が課題である。

2. 和白干潟の自然観察ガイド講習会

和白干潟の自然の特性を良く理解して観察会の案内が出来るように、6月3日に第21期「和白干潟の自然観察ガイド講習会」を開催し、20名が参加した。

日本自然保護協会・自然観察指導員の堀謙治氏を講師に招き、「自然観察会、初心に返って」と題して、観察会の心構えや五感を使うことや遊び心も必要なことなどを学んだ。

3. 和白干潟のクリーン作戦と自然観察（毎月第4土曜日）

毎月第4土曜日午後3時から5時まで、海の広場から唐原川河口、和白4丁目の範囲をその時の状況に合わせて清掃し、同時に自然観察、水質や、砂質調査を実施した。

定例のクリーン作戦は、年間12回、延べ546名が参加し、1,763袋のゴミを回収した。定例のクリーン作戦の他に、自然観察会、臨時の清掃などに延べ609名が参加し、567袋を回収した。全体では延べ1,155名が参加し2,330袋のゴミを回収した。この内、守る会人数は、延べ246名だった。

年度	活動項目	回数	延べ人数 (人)	ゴミの量 (袋)
2017	クリーン作戦	12	705	1,592
	その他	5	331	451
	合計	17	1,036	2,043
2018	クリーン作戦	12	546	1,763
	その他	10	609	567
	合計	22	1,155	2,330
増加割合(%)		129.4%	111.5%	114.0%

粗大ゴミでは、今年も自転車、タイヤ、浮き、寝具、家具類、流木など、様々な物があった。定例のクリーン作戦では、企業や、城東高校、産大生の参加が多く、全体の人数も昨年より多かった。アオサは昨年より少ない時期が多くあり、干潟の上にはほとんど無い時期が多かったが、アシの上などには多く漂着していた。総括すると、参加総人数は昨年の約111.5%、ゴミの量は約114.0%となっている。（上表参照）

- ・4月28日（土）のクリーン作戦は「干潟を守る日」と「春のビーチクリーンアップ」に参加。

- ・6月10日（日）は「ラブアースクリーンアップ」に参加。
- ・9月22日（土）のクリーン作戦は「国際ビーチクリーンアップ」に参加しゴミデータ調査を実施。ゴミ調査には今年、九州産業大学経済学部宗像ゼミの学生や、企業からの協力が有り分別が出来ている。ゴミでは依然プラスチック類のゴミが多い。

4. 第30回和白干潟まつり

第30回は11月25日（日）開催。穏やかな日和に恵まれ、約550名の参加があった。今回は第30回記念として開会式では、山本実行委員長と共催のグリーンコープ福岡東支部委員長のミニくす玉割り、協賛団体と永年出店者への感謝状贈呈を行った。市長からのメッセージ、沖縄泡瀬干潟を守る会のゲスト挨拶、ラムサール登録支援の議員などから挨拶があった。野鳥観察は約100名が49種を観察した。沿岸やアシ原、干潟での自然あそび、植物観察、干潟の生きもの観察に総勢約50名の参加があった。自然あそびは講師によるフィールド以外で自然あそびを体験できるコーナーも設け、大人にも好評だった。海ノ中道マリワールドからの「生き物タッチプール、和白海域の魚類水槽展示」がこどもたちに大好評で、隣接したお絵かきコーナーも盛況だった。30年の和白干潟まつりポスター展、活動の歴史パネル展、保育所などの観察会パネル展、和白小学校5年生の観察会パネル展、写真展も好評だった。地元和白小の子どもたちの参加もあり、親子連れでにぎわった。出店者は17組で脱原発、福島支援、九州北部豪雨被害の朝倉支援、ホームレス自立支援バザーや模擬店もにぎわった。ステージイベントには外国人の演奏家も加わり、国際色豊かなものとなった。閉会式ではラムサール宣言を採択した。30回を迎えた干潟まつりは天候に恵まれたこともあり、大変好評のうちに終わることができ、出店者からも引き続き思いを継続することへの共感を頂いた。運営については高齢化も進み、担い手の確保、内容の見直しなど今後改善の余地があることを実行委員会で確認した。

5. 和白干潟に関する学びの機会をつくる

山本代表による九州産業大学での特別講義、香椎公民館での講演、コミセン和白や香住丘公民館、西日本シティ銀行和白支店での写真展等を通し、市民が身近に和白干潟の価値を知ってもらう機会を増やした。30周年記念シンポもHPや新聞案内で一般参加を募集し、会員以外で13名の参加があった。参加者には30年誌も進呈している。

2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。

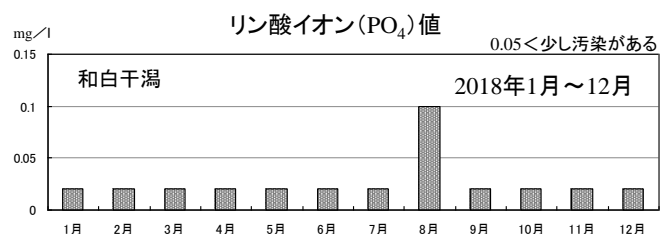
6. 調査

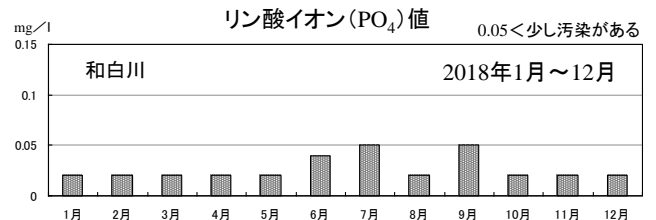
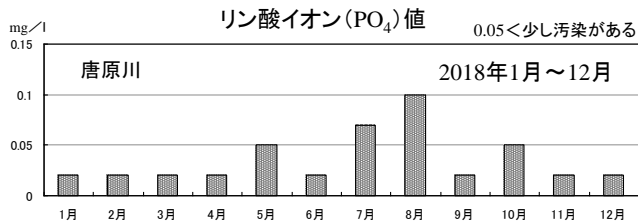
調査項目としては毎月実施する水質調査及び砂質調査、9月の国際ビーチクリーンアップ参加でのゴミ内容調査のほか、水鳥調査などを実施した。水質に関しては唐原川と和白川を調査地点に加えて観測を行っている。

(1) 水質調査（毎月1回実施）

①リン酸イオン値（ PO_4 ）は海水中のリンの状態を示すもので0.05以下は「きれいな水」であること、0.05～0.2は「少し汚染がある」状態であることを示す。

- ・和白干潟では、8月が「少し汚染がある」状態であったが、その他の月は0.05以下であり、「きれいな水」の状態であった。
- ・唐原川は、7、8月に「少し汚染がある」状態を示すが、その他の月は0.05以下であり「きれいな水」の状態であった。和白川は、年間を通して0.05以下であり、「きれいな水」の状態であった。

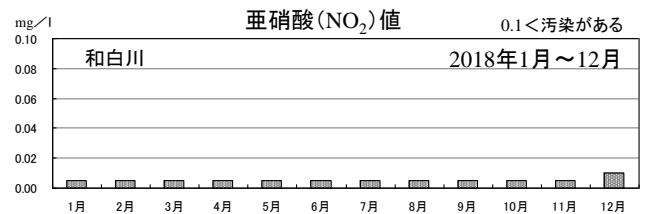
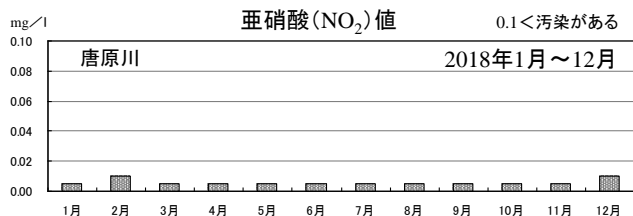
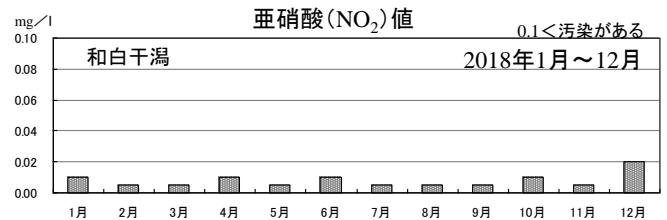




②亜硝酸値 (NO_2) は海水の窒素の状態を示すもので、0.005 以下は「きれいな水」、0.005 ~0.02 は「少し汚染がある」、0.02~0.05 は「汚染がある」状態を示す。

・和白干潟では年間を通して0.02 以下であり水質は「少し汚染がある」状態であった。

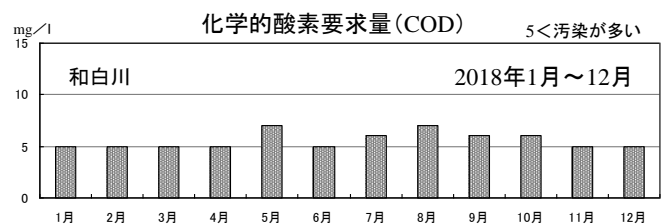
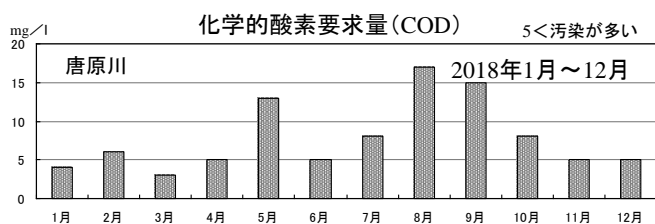
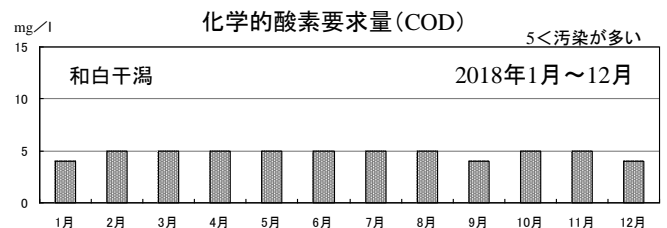
・唐原川、和白川は、年間を通して0.01 以下であり、「少し汚染がある」状態である。



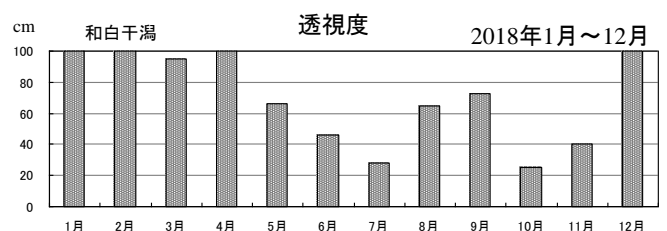
③化学的酸素要求量 (COD) は水の汚れ具合を示すもので、2 以下は「きれいな水」、2~5 は「汚染がある」状態、5~10 を「汚染が多い」としている。

・和白干潟では年間を通して5 以下であり、5 を下回る月が何回かあり、「汚染がある」状態であるが、水質は改善傾向にある。

・唐原川や和白川では年に何度か5 を越えることがあり、和白干潟に比べると汚れが多い。8 月には悪化した和白川と唐原川では唐原川の方が汚れが多い。



④透視度については、以前は通常30 cm位であったが2015年度からは透視度計の100 cmまで見えることがあり、透視度は改善傾向にある。



(2) ゴミ内容調査

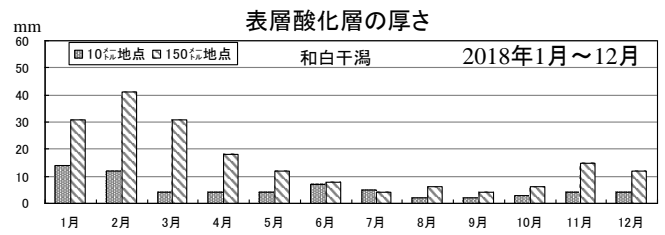
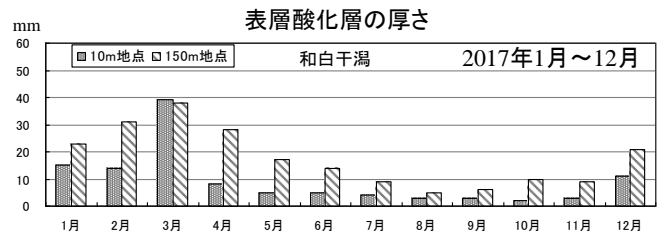
9月の国際ビーチクリーンアップにて、干潟に漂着したゴミを回収して内容調査を実施した結果、35種類のゴミが回収された。収集したゴミの中で、特に多かったのはレジ袋含む食品の包装だった。この調査には九州産業大学の宗像ゼミと西日本シティ銀行に協力していただいた。

(3) 砂質調査

和白干潟・海の広場前10m地点と150m沖合地点の表層酸化層の厚さと還元層の黒色度を測るものである。表層酸化層が厚いほど干潟が健康な状態にあることを示す。

右のグラフは、2017年度と2018年度の表層酸化層測定結果である。沖合いの方が厚い傾向にあるが2018年度は浜辺側の酸化層の厚さが薄く、2017年度に比べて悪化している。

JEANなどと協力しての漂着ゴミの分類調査も継続して行う。調査データは干潟通信やホームページで公表していく。

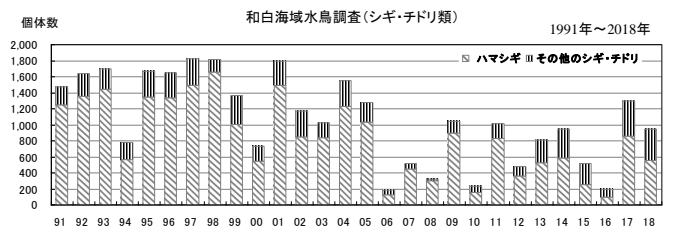
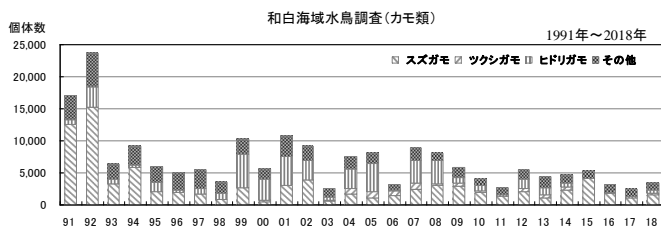


(4) 鳥類調査

鳥類調査では以下の調査に協力した。

① 1月 和白海域水鳥調査 (日本野鳥の会福岡支部) 2018年1月14日に実施。

和白海域の水鳥の越冬数 (和白海域水鳥調査) の内、カモ類は前年の2,450羽より少し増えて**3,462羽**、最多の1992年の23,719羽と比べて約7分の1だった。シギ・チドリ類は前年の1,297羽より減少し**947羽**。90年代の約1,600羽には及ばないが、冬期に越冬するハマシギなどの小型シギ・チドリ類が少し回復しているようだ。調査参加者は7名。



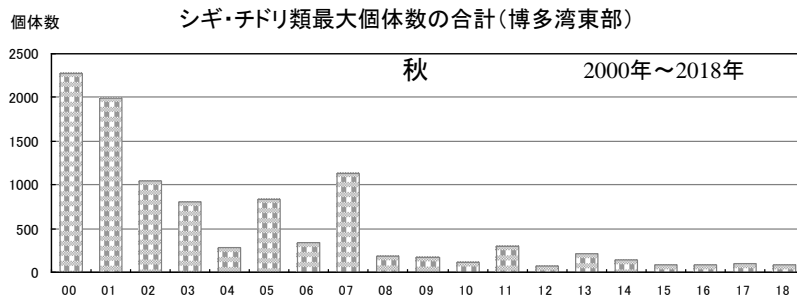
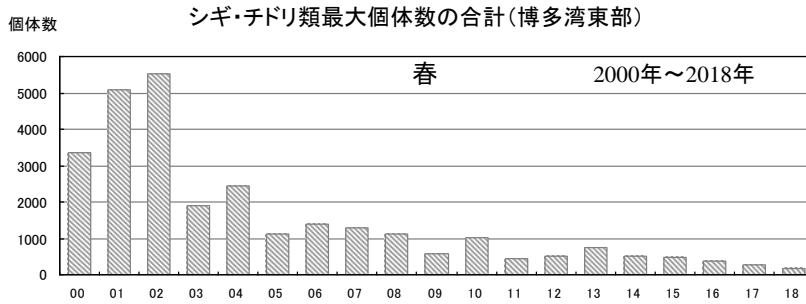
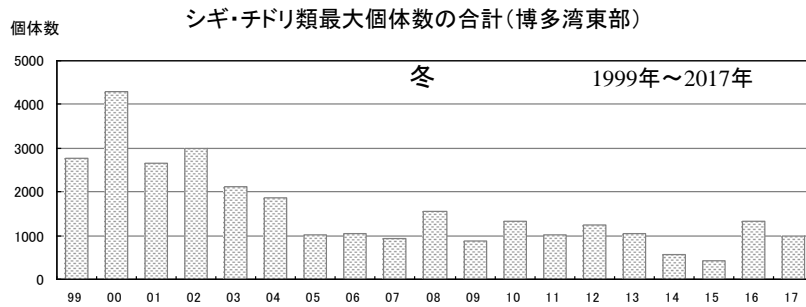
② 環境省モニタリングサイト1000シギ・チドリ調査 (環境省・NPO法人バードリサーチ)

冬期：2017年12月、2018年1～2月 今津と博多湾東部で各3回実施

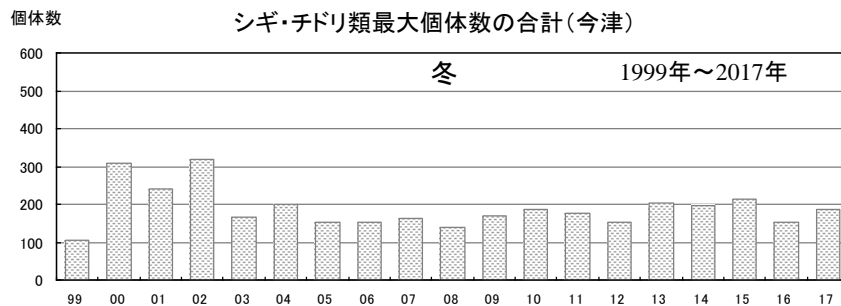
春期：2018年4月～5月 今津と博多湾東部で各3回実施

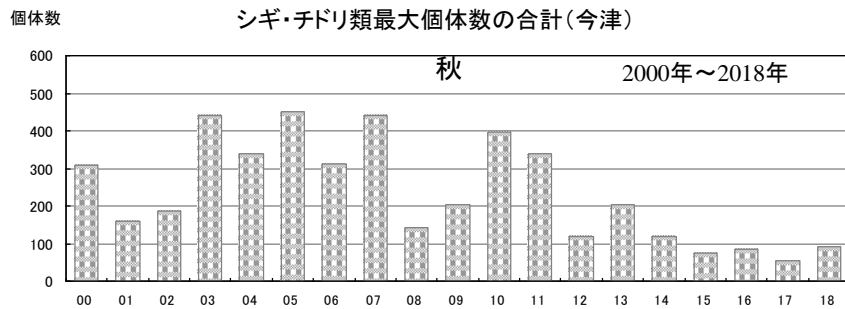
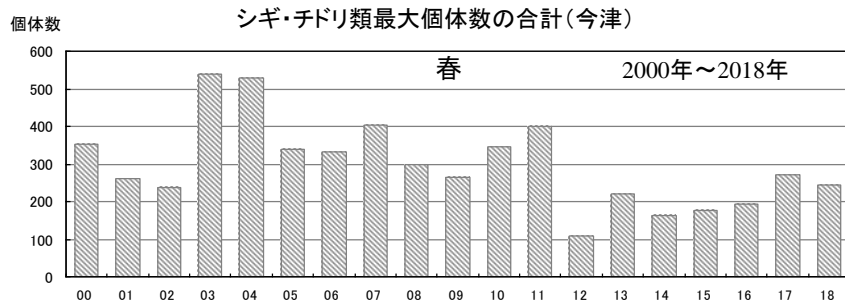
秋期：2018年8月～9月 今津と博多湾東部で各3回実施

博多湾東部海域のシギ・チドリ類最大数合計は、2017年度冬期は2000年の4,300羽から**995羽**に減少し(昨年1,324羽より減少)、2018年春期は2002年の5,509羽から**182羽**に減少(昨年263羽)。2018年秋期は2000年の2,271羽から**91羽**に減少した(昨年95羽)。希少種では、冬期と春期にクロツラヘラサギは最大**16羽**(昨年21羽)、ツクシガモ**309羽**(昨年208羽)、ズグロカモメ0羽(昨年0羽)を確認した。



今津のシギ・チドリ類最大数合計は、2017年度冬期は2002年の319羽から**188羽**に減少し(昨年151羽)、2018年春期は2003年の538羽から**243羽**に減少(昨年271羽) 2018年秋期は2005年の450羽から**90羽**へ減少(昨年54羽)。希少種では、冬期と春期にクロツラヘラサギは最大**24羽**(昨年22羽)、ツクシガモ**81羽**(昨年26羽)、ズグロカモメ**12羽**(昨年24羽)を確認した。





(※博多湾東部と今津のグラフの個体数については単位が違うことに注意！)

この20年ほどで博多湾東部の鳥類は大きく減少した。2017年冬期は、和白海域ではアオサが腐りかけて沿岸のアシに大量に絡みついていた。前年に続き冬期のシギ・チドリの個体数が増加傾向であったが、2018年春期以降はまた減少した。今津のシギ・チドリは減少状態である。2018年の鳥類調査参加者は、毎回9名から14名、延べ107名が参加。また一斉調査以外にも個人で調査を行った。鳥類調査担当者が高齢化し、車の運転者も足りない。今後も調査協力者を求めている。

※ミヤコドリは2018年には7羽が越冬しており、9/26に9羽観察(初認2羽)、10/14に16羽、10/27に22羽、11/8に25羽を観察した。(昨年度2018年1/4に28羽最大数記録)

クロツラヘラサギは2018年9/30に2羽観察(初認)、10/15に10羽観察、10/21に20羽観察。ツクシガモは11/23に1羽(初認)、12/8(20羽)、12/12(75羽)、12/24(110羽)、12/31(138羽)観察。

3. 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。

和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

7. ラムサール条約2018年度登録をめざし、行政、議会市民に向け活動に取り組む

2018年、ラムサール条約締約国会議がドバイで開かれ、日本からは東京都「葛西海浜公園」南三陸町「志津川」の2か所が登録され、国内52か所が登録湿地となったが、和白干潟は選ばれなかった。

6月24日、30周年記念・日本自然保護大賞受賞記念シンポ「未来につなごう和白干潟」を開催し、和白干潟の環境の重要性と環境を守っていく必要性について各講師が講演、参加者一同ラムサール条約登録への思いを新たにしたが、マスコミなどの反応は鈍かった。講師を務められた日本自然保護協会安部真理子氏は11月22日にも福岡市港湾空港局環境対策課を訪問し質問されたそうだが、それに対し、ほとんどわからないと答えたのみであったという。

10月に行われた福岡市長選で市長候補者2名にラムサール条約登録に関する公開質問状を送り、回答をHP

で公開した。ラムサール条約登録に消極的な現職が当選し、状況は好転を期待できない。

11月25日の第30回和白干潟まつりのラムサール宣言でも2018年の日本での登録湿地に言及し、早急な登録を求めた。

8. 福岡市の環境政策、公共事業に対し、情報収集、学習、意見交換、提言に努める

(1) 福岡市の政策についての取り組み

①4月に福岡空港からヘリポートを雁ノ巣移転に関する環境影響評価の縦覧に2名が参加、その後の公聴会を2名が傍聴し、騒音や生態系などの環境問題があることを和白干潟通信に掲載し、情報提供した。工事は開始されたが、今後の影響に注目したい。和白干潟まつりでは、新福岡空港ストップ連絡会がこの問題の展示を行った。

(2) 福岡市との連携

①「和白干潟保全のつどい」の定期開催

福岡市港湾空港局環境対策課、自然保護団体などと連携し、「和白干潟保全のつどい」を月1回定期的に開催している。4月は、香椎海岸について現地学習した。7月には「第9回夏休み！和白干潟のいきものやハマボウを見る会」を開催し、約40名が参加したが、熱中症の心配もある時期なので課題があることを確認した。9月、10月には「アオサのお掃除大作戦」を2回実施。第1回は雨天中止。第2、3回計157名、アオサ約4,500キログラムを回収した。12月には「バードウォッチング in 和白干潟 2018」を実施、寒い日だったので参加が少なく、24名が参加した。鳥は20種観察した。

②「エコパークゾーン水域利用連絡会議」

3月5日に平成29年度の会議が開催され、委員の山本代表の他会員1名が傍聴した。30年度の計画では海上パトロールがあるとされたが、実際には企画されなかった。

③3月26日「唐の原第一雨水幹線築造工事現場見学会」

守る会より5名参加、9月も見学会があり4名参加した。

④「ラブアースクリーンアップ」

5月21日福岡市主催の「ラブアースクリーンアップ」の和白干潟では30名が参加し、15袋のごみを回収した。

9. 「山・川・海の流域会議」の他団体との流域連携について

1月の新春講演会は「活動としての自然保護」を立花山グリーンガイドの会、磯野氏を講師に山を中心に自然保護の基礎から現状、今後の在り方についてお話しいただいた。4月21日、カノコソウ観察会に4名参加。5月12日の唐原川清掃活動「唐原川お掃除し隊」も6年目になり、参加者は47名だった。今後、地域との関係で秋に実施することを検討されている。秋の自然観察会は台風のため、中止となった。

10. 活動への参加の強化

会員の高齢化に伴い、和白干潟を守る会の活動を担うスタッフの確保、活動の充実に努め、ボランティアの募集にも力を入れ、気軽にボランティア参加できるよう情報提供しているが、実際はなかなか厳しい。干潟まつりのボランティアはかろうじて確保できたが、経常的な活動での人員確保が課題である。

11. 2018年に発足30周年を迎えた和白干潟を守る会の記念事業

①30年誌の発行

2017年9月から30年誌編集委員会(委員8名)を立ち上げ、2018年6月に和白干潟を守る会30年誌「未来につなごう和白干潟Ⅱ」を発行した。

②記念シンポジウムの開催

4月から記念行事準備会を委員8名で発足、綿密な準備を整えた。6月24日になみきスクエアで和白干潟

を守る会 30 周年・日本自然保護大賞受賞記念シンポジウム「未来につなごう和白干潟」を（公財）日本自然保護協会と共催で開催した。参加者は来賓 13 名含め 67 名だった。シンポジウムでは、山本代表の「和白干潟の自然と和白干潟を守る会の活動」、日本自然保護協会自然保護室主任の安部真理子氏の「日本の海の保全と日本自然保護大賞」、日本野鳥の会福岡支部副支部長の会田村耕作氏の「和白干潟の野鳥と自然環境」、熊本大学教授 逸見泰久氏の「和白干潟の生きものを守るために」、九州産業大学教授 内田泰三氏の「和白干潟の植物」の講演があった。講演内容はわかりやすく、今後の活動に具体的に生かせる内容だった。続いて守る会メンバーの「ミヤコドリ」合唱や、交流茶話会を実施し、意義深いイベントとなった。参加者には 30 年記念誌を進呈した。

③ 第 30 回和白干潟まつり

11 月 25 日の和白干潟まつりでも、感謝状贈呈などの 30 回記念セレモニーや 30 年の守る会活動パネル展、まつりポスター展を実施、市民に向けアピールした。

④ 記念動画制作

2017 年 10 月動画制作会議を高田さん中心に立ち上げ、機材を購入、撮影対象などを検討し、年間を通しての活動や和白干潟の自然に関する動画を制作中。

1 2. 広報の強化について

(1) 和白干潟通信・ホームページ・リーフレット類

①和白干潟通信は 1 月 125 号、4 月 126 号、7 月 127 号、10 月 128 号を各 5,200 部発行した。干潟通信は（公財）イオン環境財団の助成を受けて、ロータリー印刷（株）で作成した。配布先は、会員、マスコミ、行政関係、和白干潟付近の家庭、クリーン作戦、自然観察会参加者、ホテル、郵便局など。発送作業は日頃参加できない会員も加わり、みんなで行っているが、高齢化もあり、年々減少している

②ホームページは、4 名が分担し編集している。HP 担当者が 9 月から検討を重ね、12 月には HP リニューアルを行い、見やすい構成にした。

③「クリーン作戦と自然観察のお知らせポスター」は、東区役所、公民館、郵便局、周辺大学（福工大、九産大、福岡女子大）、銀行、駅、老人福祉センター（東香園）、などにも掲示依頼している。

④リーフレット類は、6 月に 30 周年誌を 2,000 部発行した。

(2) その他

①イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」への参加

イオン香椎浜店で、毎月 11 日にボランティア団体支援のイエローレシート投函を呼びかけるキャンペーンに参加し、11 年目となった。レシートの買い上げ金額の 1%相当額が団体に寄付され、4 月には 1 年間のギフトカードを寄贈される仕組み。毎月 3~4 名、年間延べ 40 名が参加し、守る会の通信やイベントのチラシを手渡しして守る会の活動への賛同を呼びかけ、多くのレシートを取得し、活動資金獲得とともに活動のアピールにつながっている。

②写真展の開催

2 月 1 日から 3 月 30 日まで西日本シティ銀行和白支店で「和白干潟の写真展」開催。5 月 11 日から 6 月 1 日まで「第 3 回和白干潟の写真展」をコミセンわじろロビーにて 3 週間開催した。香住丘公民館でも 9 月 10 日より 10 月 15 日まで写真展を開催した。

1 3. 講演活動

(1) 3 月 6 日香椎ふれあいサロンで「和白干潟」の講演

(2) 11 月 17 日「九州産業大学経済学部特別講義（宗像ゼミ主催）」山本代表

1 4. 情報の発信：新聞や雑誌、他団体の会報等に鳥情報、和白干潟の紹介を発信

・日本自然保護協会、西日本新聞東支局に年間スケジュール表を送付、クリーン作戦や和白干潟まつり

などのお知らせ掲載依頼。

- ・自然関係 4 誌に和白干潟のクリーン作戦とガイド講習会、和白干潟まつりの案内記載を依頼。
- ・日本自然保護大賞「保護実践部門」受賞のお知らせを新聞各社に送付。
- ・国土交通省河川環境課に「多自然川づくり」に関するアンケートに記入、送付。
- ・あすみん HP、メールマガジンにクリーン作戦、和白干潟まつり、ガイド講習会、ボランティア募集の掲載を依頼。
- ・(公財)日本フィランソロピー協会にクリーン作戦ボランティア募集のための年間スケジュール表を送付。
- ・ガイド講習会、和白干潟まつりのチラシとポスターを作成、コミセンわじろに掲示依頼した。
- ・JAWAN 通信に山本代表が和白干潟報告の原稿を執筆した。
- ・(公財)森林文化協会の「グリーンパワー」7・8・9月号に原稿を掲載。
- ・くすだひろこきりえ展「大好き！和白干潟」(レストラン花ももで5/1~5/31)を開催し、パンフレットや通信を配布。
- ・日本河川協会 HP 活動団体の情報更新。
- ・和白干潟の自然観察ガイド講習会のお知らせを新聞 3 社に送る。
- ・30 周年シンポについて新聞各紙、TV 局 3 社に情報提供。
- ・第 30 回和白干潟まつりについて新聞 4 社、TV 局 4 社、JAWAN メールに案内。ミニコミ誌 4 社に情報提供、1 誌が掲載。
- ・環境省福岡事務所に、五丁川河口右岸の「国指定鳥獣保護区」看板が落ちていたため連絡し、修理された。
- ・福岡市立図書館 12 館に 30 年誌を寄贈。
- ・ミヤコドリ、クロツラヘラサギの飛来について新聞各社に情報提供し、掲載された。
- ・チームエナセーブ未来プロジェクト観察会とクリーン作戦の取材を新聞 3 社に依頼。
- ・福岡市環境局に年間活動予定を送り、HP の干潟を守る会の情報を点検修正し、送付した。
- ・環境省シギ・チドリ調査サイト紹介 HP のアンケートに回答送付。HP に「探そう！全国の自然体験」に情報発信。「里海づくり活動」に関するアンケートに回答。
- ・マリンワールド「情報ひろば うみのたね」でリーフレット、通信を配置。
- ・日本河川協会の HP 活動団体紹介調査票に記入送付。

1 5. 取材協力：新聞社、テレビ局、雑誌などからの取材に協力

- ・日本自然保護大賞受賞に関して読売新聞が取材、掲載された。
- ・30 周年記念シンポで毎日新聞社が取材、掲載。
- ・かわさき FM の「舞はるり TO THE NATURE」の取材、ユーチューブにアップされた。
- ・アオサ回収について NHK からの取材を受け、前日放映されたが、当日は台風のため中止となった。
- ・第 30 回干潟まつりで、TV 西日本の取材があり、放映され、毎日新聞が取材、掲載された。
- ・朝日新聞から 30 周年についての取材があり、掲載された。

1 6. 対外団体との交流活動、協力・参加活動

- (1) 和白海岸定例探鳥会 毎月 1 回「和白海岸探鳥会」で日本野鳥の会福岡支部に協力している。
- (2) JAWAN、JEAN

①3 月：東京で開催された 2018 年度 JAWAN 総会に代理出席。(山本代表は日本自然保護大賞受賞と日程が重なったため)

- 4月：「干潟・湿地を守る日2018」参加。クリーン作戦と併せて実施し、2018年和白干潟宣言を出した。
- ②JEAN「国際ビーチクリーンアップ（春・秋）」に参加した。4月はクリーン作戦と併せて実施。9月はクリーン作戦と併せ、漂着ゴミ調査を九産大宗像ゼミとともにいった。

(3) 日本自然保護協会

- ①「和白干潟を守る会30周年・日本自然保護大賞受賞記念シンポジウム」を和白干潟を守る会と共催した。講師を派遣し、講演をしてもらった。またアオサについての視察で11月に訪問された。
- ②自然しらべ「身近なあり調査」に6名参加し、和白干潟と代表宅の2か所で調査、結果報告した。

(4) グリーンコープ生協ふくおか福岡東支部

第30回和白干潟まつりを共催した。

(5) 福岡市ボランティア交流センター「あすみん」

HPなどへの情報提供を継続し、ボランティア登録した学生などがクリーン作戦に参加している。

(6) 「博多湾会議」

7月の博多湾会議創立30周年事業の「豊かな博多湾の自然と人工島展」にきりえと写真展示で協力、100号記念誌に代表が寄稿した。和白干潟まつりにおいて協賛団体、出展者として30年間支えてくださったことで感謝状を贈呈した。

17. 「和白干潟を守る会」の運営に関して

(1) 定例会議・総会

原則第4土曜日に守る会の事務所で「定例会議」を11回開催。2月は「総会」を開催し、同日に臨時定例会議を開催した。総会で1年間の活動のまとめ、会計報告、新年度活動方針、予算等を決め、定例会議では会の活動に関する報告、予定を共有し、重要な事項は全員で意見交換して決定した。定例会議出席者は各回14～19名、平均約17名が出席した。また必要に応じて事務局会議を開催した。

(2) 事務局体制と役割分担

会の活動にあたって、定例会議に出席している事務局メンバーはできるだけ様々な活動を分担することとしている。15年度より会計の日常的な管理と帳簿管理を2人体制で分担している。今年度は30年誌作成担当、動画制作担当を決め、活動している。また、望年会、大掃除なども担当責任者を決め、望年会には15名が参加し、ベトナムからの留学生も加わった。大掃除には8名が参加した。

(3) 助成

イオン環境財団から助成金を受けた。

(4) 寄付

- ① イオン九州（株）から「幸せの黄色いレシートキャンペーン」でギフトカードを寄付いただいた。
- ② あいおいニッセイ同和損保KK福岡支店より寄付いただいた。
- ③ 和白東レインボークラブ連合会より寄付いただいた。
- ④ MS&ADホールディングスより寄付いただいた。
- ⑤ 住友ゴム工業（株）・日本ユネスコ協会連盟より寄付いただいた。
- ⑥ 会員や一般市民、観察会、干潟まつり、望年会オークション等でカンパをいただいた。

(5) 応募

- ・1月「第5回エクセレントNPO大賞」の「市民賞」ノミネート
- ・3月「日本自然保護大賞」（保護実践部門賞）受賞
- ・11月「あしたのまち・くらしづくり活動賞」「振興奨励賞」受賞
- ・11月「H30年度ふくおか地域づくり活動賞」準グランプリ受賞。

(6) 2018 年度末の新規会員

個人：5 名、団体：1

(7) 2018 年度末会員数（新規会員含む）

個人会員： 242 名

団体会員： 15 団体

18. パンフレット類の在庫（2018 年 1 月現在）

- ・和白干潟を守る会リーフレット 2,969
- ・和白干潟の自然案内（和文） 4,750
- ・環境教育シリーズⅠ（環境教育プログラム） 48
- ・環境教育シリーズⅡ（水鳥, 底生生物、植物図鑑） 1,950
- ・和白干潟観察マップ・年間スケジュール表 毎年印刷
- ・和白干潟を守る会封筒 7,000
- ・ラムサール条約と和白干潟 703
- ・未来につなごう和白干潟～和白干潟を守る会 20 年のあゆみ 6
- ・未来につなごう和白干潟～和白干潟を守る会 30 年の歩み 1,014
- ・四季の和白干潟の自然Ⅰ 6,000
- ・四季の和白干潟の自然Ⅱ 6,500
- ・和白干潟の自然案内（英文） 528
- ・環境教育シリーズⅡ（英文） 461
- ・環境教育シリーズⅡ（韓文） 78

19. その他

- ・海ノ中道海浜公園委託の鳥類調査に協力（毎月 1 回）4 名